



第 15 号

千 町 田

発行元:(農)のきの郷
安来市利弘町 922-3
Tel/Fax:22-2580
発行責任者:河津 一行

27年度上半期を終えて

副代表理事 河津一行

収穫の秋を迎え、また今年度も終盤戦に入りました。上半期を振り返ると、なたねちゃんフェスタ、きてごしない祭りなど春夏のイベントでは皆様のご協力をいただき無事開催することが出来ました。本当にありがとうございます。

また、私は総務部長を兼任しておりますが総務部関連事業も皆様の協力により円滑に進んでいます。全体の事業計画もなかなか予算通りには、いかないものの今のところ順調に推移していると思います。また補助事業への参画も予定通り進んでいます。

ただ、事業が進む中で多くの問題点が発生しています。大きな問題に雇用の問題があります。また、出役者の確保が困難になってきているということがあります。これから新しい事業に取り組んで行かなくてはならないのきの郷としては大きく不安な問題となっています。今までのきの郷は、農地保全と



地域活性化を重視してきましたがそれだけでは生き残っていけないと思います。国がいつまでも補助事業を続けてくれるとは限りません。また、TPPが妥結し国際的な競争時代が来た時に備えなければなりません。これからは、グローバルな営農の展開と、それに伴う優秀な人材の確保・育成を考えていかなければならないと考えています。

そんなことも考慮しながら今年度の計画達成に向かい努力し、また来年度事業も合わせて考えてまいります。今後ともこれまで以上のご理解とご協力をお願いいたします。

ましては、現在は大豆、麦、菜種の栽培を行っておりますが、生産金額はまだ低く金額の上がる栽培品目を模索しているところです。特に、地元の特産物や他地域の農業団体が行っている栽培作物の情報を収集し、今後取組むべき事業を組合員の皆様にご提示したいと考えております。

次に、色々な種類の作物の栽培を行うためにはそれなりの栽培技術の習得が必要となります。また、作業従事者は組合員とその家族となっておりますが今後の取組み方

将来を見据えて

企画部長 坂田宣雄

中長期計画を企画・立案するにあたって、猫の目のように変化する農政に対し、いかに対応するかが現段階の差し迫った大きなテーマであります。

現在、150ヘクタールにおよぶ耕地を管理するのきの郷ですが、主力は水稻です。これは今後も同様だと考えています。耕地の有効利用につきましては、大豆、麦、菜種の栽培を行っておりますが、生産金額はまだ低く金額の上がる栽培品目を模索しているところです。

法によっては人員の不足が考えられます。そして作業従事者の高齢化も大きな問題として捉え、若手従事者の養成・確保もあわせて考えてまいります。

各圃場の登記処理が終わり、合わせてのきの郷事務所の登記も終わりました。それに伴い事務所の住所が変更になりました。

旧住所 利弘町 922-1
↓
新住所 利弘町 922-3

秋作業始まる

収穫の秋ということで、秋の作業が始まっています。まずは稲刈り。つや姫、コシヒカリは9月上旬で終了しました。きぬむすめ、にこまるも成熟具合と天気模様を見ながら随時刈り始めます。そして、とまとの収穫も始まりました。日照の問題か色つきに手間取っています。グリーンセンターなどで販売しています。また、収穫前のひと手間として、畔の草刈り、大豆の草取りなど皆さんの協力を頂き進めています。



きてごしない祭り

8月22日豊作祈願を兼ねて、きてごしない祭りを開催しました。今年は夏祭りという事で夕方から始まりました。たくさんの方たちにお越しいただき、また運営に携わっていただくことで盛大なお祭りを開催することが出来ました。



のきの郷産
なたね油 注文開始
27年産なたね油の注文販売を開始します。ただし、数に限りがあるため先着順とさせていただきます。注文用紙を配布いたしますのでお早めにご注文下さい。なお、注文が多数の場合は洲本市産なたね油にて対応いたしますのでご了承ください。

きてごしない祭りでは忘れ物がありました。茶色のファスナー付小銭入れです。お心当たりの方はのきの郷事務所まで。

ちよっこし聞いて
中秋の名月は終わり、スーパーマンは雲の影。金木犀の甘い香りのなか秋を感じております。そして秋作業はまだ続きます。(ちよ)



少ししか体験できなくて残念でした。

能義小学校5年生の体験学習で稲刈りを9月3日に行いました。稲刈りを始めると大粒の雨が降り出し、



能義小学校 稲刈り体験学習

美味しね認証のPR「マーシャル」のにきの郷特産部会のみなさんがちよっぴり出演しています。山陰中央テレビの番組の途中にちよっと出ることがあります。11月末まで随時流れますのでお見逃しなく。